

「心臓血管造影装置」増設

製鉄室蘭病院 2台態勢に

急患受け入れ スムーズ対応

室蘭市知利別町の製鉄記念室蘭病院（松木高雪病院長）は、急性心疾患の診断や治療に用いる「心臓血管造影装置」を増設した。2台態勢になり、「検査の待ち時間短縮だけでなく、救急患者の受け入れが重なった際にも、スムーズに対応できる」（同病院）という。西胆振管内の急性期救急医療の態勢強化にもつながる格好だ。

（松岡秀宜）

狭心症や心筋梗塞などの急性心疾患は、命に関わる病気の一つ。血管内にカテーテル（細い管）を挿入した上で①造影剤を用いて血管の情報を得たり、エックス線撮影で血管の病変（狭窄、瘤、奇形など）を診断する冠動脈造影②血管の狭くなった部分（狭窄部位）を風船（バルーン）で広げる冠動脈形成術③などの検査や治療は、迅速な対応が必要とされている。同病院では、2013年度（平成25年度）の冠

動脈造影件数は5255件、冠動脈形成術は250件と、ともに過去最多を記録。今後も、患者の増加が予想される状況を踏まえ、装置を増設した。今回、導入した装置は、患部を撮影するアームが一つの「シングルプレーン」と呼ばれるタイプ。製鉄記念室蘭病院が、新たに導入した心臓血管造影装置。複数の救急患者への検査・治療が同時並行の上、より円滑に進められる態勢となった。

アームが二つあるタイプの「バイプレーン」は複雑な病変にも対応できる

が、シングルプレーンは、一つのアームのため操作を簡略化できる上に動きが迅速化され、「病変を早く評価できる」（同）という。

さらに、最新鋭タイプのため、①撮影画像を映し出すモニターが大型化され、血圧や心電図などの情報をリアルタイムで確認可能②エックス線による被ばく量も監視できる—などの特長がある。「検査や治療の安全性が大きく向上する」（同）という。

西胆振管内の急性心疾患患者は現在、大半が同病院に救急搬送されている状況だ。「年間数例ある」（同）といった複数の急性心疾患患者への緊急な検査・治療についても、今回の態勢強化で、より一層、迅速な対応が可能になる。

循環器病分野が専門の松木病院長は「急性心筋梗塞は、迅速な診断と治療を要する『待てない医療』の一つ。専門的な見地で話す（血管の）狭窄率が50%でも心筋梗塞が起きる。このため、50歳を超えると、いつ発症するか分からない病気のひとつ」と解説する。

その上で、「24時間365日態勢での対応が必要だが装置が複数になることで、複数の救急患者への検査・治療が同時並行に、より円滑に進められる。西胆振の救急医療に一層、貢献していきたい」と話している。

